

大阪障害者センターニュース

OSTK

みんなの  
しあわせ

ぽぽろだより

2008年7月15日 17号

編集；大阪障害者センター 購読料；1部50円  
〒558-0011 大阪市住吉区荻田5-1-22-201  
Tel106-6697-9005 Fax6697-9059  
昭和51年10月2日 第3種郵便物認可（毎月5.15.25日発行）  
OSTKみんなのしあわせ定刊 通刊2032号

ぽぽろドレミファ  
くらぶ 本格実施

日中一時支援事業

記念講演会&レセプション ご案内

記念講演は白石正久先生(竜谷大)に決定

日時)8月22日(金) 午後3時～午後7時半、 於)アウィーナおおさか  
～只今、立ち上げ2カ年緊急募金をお願いしています～(訴えは4頁)

大阪発達支援センターぽぽろ  
本格開所記念講演会 & レセ  
プションのご案内

平素より、障害のある子ども  
たちの療育・教育・福祉にご尽  
力いただいておりますことに心  
から敬意を表します。

大阪発達支援センター「ぽぽ  
ろ」が、大阪障害者センターの  
「子どもで・教育支援部門」と  
してスタートして5年がたちま  
した。「ぽぽろ」は皆さんの温  
かいお力ぞえで、障害のある子  
どもたち・ご家族の多面的な相  
談やねがいを受け止め、今日的  
な切実な課題を事業化するまで  
に成長してきました。

本年3月からは、生活協同組  
合おおさかパルコープさんのご  
協力を得て、事務所とプレール  
ムを鶴見区今

津北に移設・  
確保し、この

夏休みから、  
親子療育教室  
や学童保育を  
日中一時支援  
事業として本  
格的に実施  
(火土開所)

する運びとな

りました。加えて、青年分野の  
自立・自律を支援する教室事業  
もスタートし、支援センターの  
相談派遣や施設・保育所実践支  
援事業も広がっています。

新しい事務所の開設と事業の  
開始を契機に、真に人権と科学  
に裏打ちされた実践・研究・運  
動を創り発信していく拠点とな  
るよう奮闘する所存です。

つきましては、大阪発達支援  
センター「ぽぽろ」の本格開所  
を記念して、左記のとおり講演  
会並びにレセプションを開催し  
ます。ご多忙とは存じますが万  
障繰り合わせの上、ご出席いた  
だきますようお願い申し上げます  
大阪障害者センター  
理事長 中内 福成

8/22記念講演&レセプション

<午後3時～>

- ・あいさつ
- ・記念講演 白石正久氏  
テーマ「子どもの発達と療  
育・学童保育～今こそ福祉  
と教育の連携を～」

・高橋紗都さん  
ギターミニ演奏&おねがい

<午後5時半～>

- ・レセプション(会食)
- ・各界あいさつ、ぽぽろスタッ  
フリレートーク、出し物など  
<参加申込みはぽぽろまで>

# 第2回「教員・施設職員のための教室」終わる いくつになっても人は変わる！！ 自己肯定感を育む実践と社会を創ろう！



六月二十九日、第2回目の「教員・福祉職員のための教室」をぼぼろで開催し、約三〇名の参加がありました。ぼぼろのスタッフが関わる実践3本と初めての当事者の報告に、すべての参加者が納得と感動と希望をもちることができました。日曜日にもかかわらずご報告、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

「青年 成人期のすがたと実践から学ぶ―施設（わかたけ）実践支援事業の事例から―」（青木 道忠 ぼぼろ所長）

・ 教育現場で体験された作業所での実践活動の報告に新しい

切り口を見いだすことができました。問題行動のとらえかたをあらためておさえることができてとても有意義な時間でした。また、支援者としての視点を学び直すことができました。こだわりのついでには漠然とした認識での理解や受容だったので特例などをベースに話されていたので、わかりやすかったです。自閉の方だけでなく、障害のある方との関わりの中で、大事な部分など、改めて気付かされた面もあり、興味深く楽しかったです。

・ いくつになっても人は変われる。期待され、少しの自信がつけば大きな喜びにつながる。か

「青年 成人期のすがたと実践から学ぶ―通所施設（とんぼ作業所）の実践を通して―」（とんぼ作業所職員 下條伊知郎氏・ぼぼろ相談員 丸山和代氏）

くれた要求をくみあげて、仲間が輝く実践をつくっていききたいと思った。

・ 実践のとりくみとてもよかつ

## 参加者感想

たです。高等部卒業後、子どもたちがどんな人生を過ごすのか学校生活より長い人生のことを私も知って、豊かな生活を送れるにはということを考える意義を実感した。

・ 食事支援を通してどのようになかまと接していくのか、作業所でどのような取り組みで支援していくのかを考える必要があると講座を聞いて思った。なかまは勿論、自分も笑顔で作業所にこれるようになりたい。

・ 小さな出来事から成長の芽を見いだされた実践活動に感動させてもらいました。

・ 職場の活動時間での取り組みで色々悩んでいるところなので、自信をつけることはやさしいことをクリアしていくだけではいけないという話に目からウロコでした。自己肯定へつながらる取り組み 小さなことでも本人さんたちにスポットがあたるようなものをみつけるのが、わたしたちの仕事なのかなと思えました。

・ 辻さんの話を聞いて、今日聞いた誰の話より、現実的でA4の紙に5枚書いた話を聞いたが

・ 食事支援を通してどのようになかまと接していくのか、作業所でどのような取り組みで支援していくのかを考える必要があると講座を聞いて思った。なかまは勿論、自分も笑顔で作業所にこれるようになりたい。

「ヤングボラからヤングクラへ―ぼぼろ青年ボランティアの自立支援のとりくみ―」（ぼぼろ相談員 小田多久代氏）「ぼぼろのボランティア活動に参加して」（辻佳保里さん（ぼぼろ青年ボランティア））

5枚の量を感じさせないような内容だった。自分の苦しさを言葉にして発表できている。自分がこんなに素直に表現できるのかと思った。話を聞いて自分を考えさせられる一時間になった。

・ 大切な話を聞かせて頂いて本当にありがとうございました。この講座が聞けたので今日はずいぶん良かったです。自分を認められない、自分が本気にしたいとは何か。自分が何の役に立つのか、私自身の中にもある心の揺れですが、なかなか人にさらけだせない。そんな気持ちをあんなにもまっすぐ堂々と話されていて、ものすごく刺激を受けました。緊張されたらうな。本当にご苦労さまでした

・ 辻さんの話を聞いて十代の頃の自分を思い出しました。自分



が嫌い、悲観的という部分を今笑顔をまじえながら話しているところをみてみると少しづつ変化して、その変化を楽しみだしているのかなと思いました。信頼できる人との出逢いがあってきつと、その人たちの力を支えにして、自分の足で一步一步進んでいけるのでしょうか。そのうち、めんどくさいがウジウジするのめんどくさいにかわっていくと思います。すごくドキドキした発表だったと思います。が素敵でした。

・全体をおして、人が生きていく上で大切なこと、仲間、連帯、共感、自己肯定感、要求の出すゆるたりとした人間らしい生活、社会だと再確認した。

・小田さんの願い、想いがしっかり伝わって、元気をもらった

### 辻佳保里さんへのエール

ぼぼろスタッフ 小田多久代

あなたと私は13年前に3年間のおつきあいをしました。寄宿舍のある府立病弱養護学校ででした。ここでは病気や病気などからくる二次的なねじれに悩み揺れつつも思春期まっただ中を変化発展し成長していくあなたやあなたの先輩、後輩たちが育っていきました。私は学部の教育を受け持ちました。しかし何と言ってもこの学校の特徴は寄宿舍があるということでした。「同じ釜の飯」を食いながら生活の力をつけ、ほとんどの子が最も苦手とする交わる力をつけていき、命の大切さや、人は信ずるにたるということを学ぶ様をみてきました。

病気とつきあいつつ、やがてあなたは高校・大学へと進みました。大人への道をますます、すこやかに邁進しているように思っていました。

ところが、あなたは自己否定の重い塊を持って時になげやりという鎖をつけ停泊している。そんなあなたが自立したいともがいていた。

先日の発表は自分の殻から脱皮する第一弾でした。見事でした。

脱皮はまだ途上です。今また次の矛盾に悩み始めていますね。

世はまさに「自己責任」の名の下に「格差」をつけてくる時代です。孤立も不安も時に襲う無力さも、共に悩み、共に考え、共に歩むというあの「泉北」魂で、連帯、安定、意欲に換えていこうよ。力をつけていこうよ。楽しく。

ぼぼろのヤングボランティア、ヤングクラスはそのための活動の場なんだよ。

めて私は先生を信頼しているんだなあって思い知りました。初めて原稿を読んで分を書き足して欲しい』と言われた時は、さすがにちよつと泣きそうになりましたが、先生に言われ書き足した原稿も全然自信がなく、当日の朝家を出るギリギリまで往生際悪く書き直しをするという状態でした。そんな

この期間、本当に嫌というほど自分の事を振り返り、よく考えました。考えれば考えるほど自分には何も良いところなほど無くないか、こんな自分が嫌になって時には逃げ出し機会がなければ絶対に自分の事なんて振り返らなかつたし、

講座でした。辻さんの話は本当にうまい。影で努力されたんだと思えました。感動しました。とても素敵なお話ありがとうございます。私も自分の気持ちを出すことは大の苦手で、ずっとさけてとおって生きてきました。自分を否定して嫌いで生きてきたお話とても共感しました。勇気や努力をもつていてまだまだ若いです。人生山あり谷ありです。お互いががんばりましょう。

**辻さんの感想**  
イヤというほど自分の事を振り返った！ありがとう！  
先生に発表してほしいと言われた時から「私は人の前に立つて話をするような立場の人間じゃない。経験だつて言う程ないし、まだまだ勉強中の私に一体何を頼むの！？先生もなかなか無謀な事するな」という思いがずっと私の中にありました。それから当

日まで片時も発表の事を忘れてる事が出来ず、何をしていても思い出してしまい、どうしよう…と考え込んでしまう日が続きました。そんな私の唯一の救いが、私一人だけじゃなく小田先生も一緒に発表するということでした。一人だつたら絶対になかつたし、出たら絶対になかつたです。先生と一緒に来なかつたです。先生と一緒にという事で随分と気持ちも楽でした。原稿を考える時はずつと先生に頼りっぱなしで、改めて私は先生を信頼しているんだなあって思い知りました。初めて原稿を読んで分を書き足して欲しい』と言われた時は、さすがにちよつと泣きそうになりましたが、先生に言われ書き足した原稿も全然自信がなく、当日の朝家を出るギリギリまで往生際悪く書き直しをするという状態でした。そんな

な状態だったので時間が近づくとつれどんどん不安になって、それに緊張も加わって、聴きにきていたヤングボラのメンバーにまで緊張を移してしましました。発表直前は笑っていたと思つたら泣きそうになつたり…と妙なテンションだつたことは覚えていいます。そんなテンションのままとう発表の時間が来てしまい、ここまできたら仕方ないと腹をくくって、ただがむしやらずに原稿を読んだという感じでもそんな私の発表を聴いて所々笑つたくれた時、終わった後のあの拍手、それにわざわざ私に『よかつたよ』と言いにきてくれた人がいたことが、本当に嬉しかつたし感激しました。この時やつてよかつたつて初めて思えたり、充実感を味わうことも出来ました。

### 今回の「教員・福祉職員のための教室」 テーマは「障がいのある人と性と生」(予)

今回は「障がいのある人と性と生」をテーマに堺市内で地域生活支援センターや府立支援学校の先生方と「せいかつをゆたかに実行委員会」をつくって「知的障害のある青年たちへの恋愛・結婚セミナー」の取り組みをされてきた千住真理子先生(ぼぼろ相談員)に実践報告をお願いしています。乞うご期待。

ここまで真剣に自分の事を考えることもしませんでした。自分で言うのも変ですが、よくやっとなつて思いますが、こんな事を頼む先生を恨んだりもしましたが(笑) いい経験をさせてもらったなつて今はやっと思えるようになってきました。発表する機会を与えてくださった先生、一緒に文章を考えてくれた小田先生、励ましてくれたヤンボラのメンバー、私

の話で感動してくれた人、すべての人達にありがとうと言いたいです。本当にありがとうございました!!

### ヤンボラで「つるみ村七夕祭り」に参加したよ

「音楽あそび教室」でボランティアをしたヤンボラたちが今年、その足で「つるみ村七夕祭り」にくり出しました。

祭りは「手をつなごう! 障害者が安心して暮らせるみんなが生きるまちを!」を掲げ、生活協同組合へルスコープおおさか・コープおおさか病院や障害者支援センターつるみ、椿福祉会、NPO法人ぼんの木による実行委員会主催で8回目。みんなでゆかたやはつぴなどを着て「うみ」



七月五日、す。青年たち、元青年たち

と「世界に」ただけの花」を歌いました。貧困と格差社会に負けないで、ぼぼろもこの地域に根をはって地域を創る一員として手をつないで生きたいです。



NPO法人 大阪障害者センター教育部門

# 大阪発達支援センターぼぼろ 新規事業立ち上げ 緊急募金のおねがい

真に人権と科学に裏打ちされた実践・研究・運動を創り発信していく拠点に

平素から、当法人・教育部門「大阪発達支援センターぼぼろ」に對しまして温かいご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

#### 「困っている人」

約2年前に出会った不登校のAくんはしょっちゅうパニックになって大暴れする「困った子」でした。学校の事務室の方が見かねて「駆け込み寺」があると「ぼぼろ」を紹介されました。

養護学校に通えるようになったAくんは今では「ぼく、ぼぼろすきやねん! ぼぼろの先生みんな大好き」と信頼を寄せています。一番「困っている子」であるA君を真ん中に、すがる思いで相談にいらつしやつたご両親と一緒に私たちも悩み成長してきました。このような例がたくさん生まれ、ぼぼろへの信頼と期待は確実に広がっています。

地道な子育て・発達相談支援は今でも一番大切なぼぼろの事業です。二〇名を超える退職教員・保育士・精神保健福祉士が一生懸命に研鑽しながら、チームワークの力で「軽度」発達障害といわれる子どもたちやそのご家族の相談にも応じられるようになってきました。

広がる子育て・教育支援の活動  
そして、府内十カ所の地域生活支援センターにも出かけていっしょに相談活動にとりくんだり、福祉施設や保育所等と共同でケース研究や発達支援を

行ったりするなど、多面的な取り組みを広げてまいりました。子育て支援の家族連続講座も7年間続き、2007年度は府内の8箇所で開催し、のべ約800名の方に参加していただき、地域の中に学校や教育環境をよくする運動の力を育んできました。また、教職員・福祉職員のための実践講座も年間10講座を超えて開催し、昨年はのべ約600名の方々にご参加いただきました。

そんな中、「相談活動にとどまらず、実践を通じた継続的な指導や援助もしてほしい」というご家族のねがいを受けてとめ、この一年、幼児を対象にした親子の療育教室や土曜日・夏休みの学童保育、不登校の子どもの居場所づくりなどにも手がけてまいりました。しかし、こうした事業はいずれも今ある制度をそのまま活用することが難しく、ご家族からの一部利用料と、多くはぼろスタッフ及び現場教職員の皆さんによるボランティア的活動によって細々と事業（実践）が支えられてきたのが実状です。

**療育、放課後ケアへの**

**ねがいを制度に**

これまで放課後・長期休業中の活動保障への要求はきわめて高いにもかかわらず、実施基準に手をつけないうまま報酬単価のみが引き下げられ、新たに日中一時支援事業を申請する事業所がまったく広がりにませんでした。私ども

**実践・研究・運動の発信拠点に**

私どもの事業は、第一に、現行制度の谷間になっている放課後・長期休業中の活動支援や遅れた分野である「発達障害児」への具体的支援を通じて、府内の療育、学童保育、事業所関係者とともに障がいのある子どもたちの放課後学童保育などの制度を実現させる運動でも積極的な役割を果たすことができます。第二に、新しい事業の利用者や運動の参加者は学校卒業後の様々な事業や運動の継承者となり、若い新

ものような「相談支援」をベースに自主的な事業を起こしたNPO法人が障害者自立支援法実施以降に日中一時支援事業を申請するというケースは珍しく、今回、事務所と会場の確保や自治体との協議・調整は困難を極めました。

**日中一時支援事業に着手**

このたび地域の消費生活協のご配慮により一定の場所を借り受け、事務所・プレールームなどを確保・改修することができました。そして、大阪市など自治体との協議により、「日中一時支援事業」として「大阪発達支援センターぼぼろ ドレミファくらぶ」の立ち上げにこぎつけることができ、本年3月からその事業の展開を始めたところです。4月からは東大阪市、大東市に、7月からは門真市など近隣自治体にも事業所登録を行い、大変喜ばれています。

たな息吹を吹き込むことにつながります。第三に、ベテランの退職者と次代を担うフレッシュなスタッフによる支援者集団をつくっていくことにより、求められる実践（事業）と研究、運動を発信し、事業を安定的に維持することが可能となります。第四に、生活協同組合をはじめとする福祉や医療関係者と事業連携し、貧困と格差があらゆる分野で深刻化しているときに共通の

課題で共同できる大阪障害者センターが、以下の「新事務所・事業所立ち上げ緊急募金」を実施することとなりました。新事務所・事業所の立ち上げの意義と立ち上げ資金投入による窮状にご理解をいただき、募金への取り組みをお願いいたします。

**立ち上げ緊急募金を実施**

大阪発達支援センターぼぼろを育てる会・呼びかけ人一同

NPPO法人 大阪障害者センター

**「大阪発達支援センターぼぼろを育てる会」**

**—2008年度会費納入のお願い—**

「育てる会」へのご協力ありがとうございます。今年度会費の納入がまだの方は、下記の郵便振替口座にお振込をお願いいたします。

**<郵便振替>**

口座番号：「00940-2-40308」

加入者名：「大阪障害者センター」

**～「会員」さんの特典は以下のとおりです。～**

- (1) 1回目の相談はどなたも無料です。継続的・定期的な発達・教育相談の料金は、1回4,000円のところを3,000円にさせていただきます。保護者からの依頼による出張ケース会議は上記に交通費実費相当額が加わります。
- (2) ことばと発音教室の指導料を、1回4,000円のところを3,000円にさせていただきます。
- (3) 発達検査等の検査料を、1回6,000円のところを1回5,000円にさせていただきます。なお、検査料には検査結果の報告も含まれます。
- (4) 日中一時支援事業（ぼぼろドレミファくらぶ）やその他の教室事業につきまして、長期休業中（夏休みなど）の利用優先予約ができます。
- (5) 発達支援センターぼぼろが発行します「ぼぼろだより」（隔月発行）を配布いたします。講座や子育て支援教室等の情報が掲載されます。一部の講座が割引となります。

理事長 中内 福成 大阪発達支援センター ぼぼろ  
 所長 青木 道忠  
 ※見出しは編集部でつけさせていただきます

【大阪発達支援センター ぼぼろ新事務所・事業所立ち上げ緊急募金】

□募金の使途：発達支援センター ぼぼろ新事務所、新規事業の場所を確保するための改築・移転費用及びそのための事務経費等への運用

□募金目標：550万円

□募集期間：2008年4月～

2010年3月の2年間

□募金内容：小口募金 100円、大口募金 1000万円

※何口でも可。

※ただし、NPO法人のため、寄付控除の対象とはなりません。

□募金方法：別紙寄付申込書記入の上、各事務局への直接入金あるいは、郵便振り替え用紙必ず備考欄に「新事務所・事業立ち上げ緊急募金」とご記入下さい。(を)をご利用下さい。

※郵便振替

口座番号：「00940」

「240308」 加入者名：

「大阪障害者センター」

2008年度 教職員・施設職員のための実践講座

「夏期連続講座」受講申込書

氏名 \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_

連絡先住所 (自宅、職場) \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

大阪発達支援センターぼぼろを育てる会 ( 会 員 、 非 会 員 )

講座日時	講 座 名	申 込 み 講 座	受講料 (会員 1 割引)
7/24、25 全日	「発音指導」①～④『子どもの発音の状態をつかむ』『構音の仕組みと育ち』 『発音指導の実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』 加藤登美子(言語聴覚士、奈良教育大・大教大非常勤講師)		8,000円
8/5 全日	「手作り教材Ⅰ」 「竹人形」、「毛糸を使った鳩の折り人形」、「ペットボトルのマラカス」、「紙の刀」「風船で作る船」など 町田正一氏 (府立守口支援学校)		4,000円
8/7 午後	「障がい児学級の実践と運営」 ※午前はぼぼろ学童保育で実技 柴田昭二氏 (堺市立光電寺小)		2,000円 実技込 3,000円
8/8 午前	「障がいのある子の性と生」 播本裕子氏 (大阪障害児者を守る会副会長)		2,000円
8/8 午後	「障がいのある子と性教育」 千住真理子氏 (堺市立中学校)		2,000円
8/11 午前	「障害者自立支援法と障がい者の教育・暮らし」 塩見洋介氏 (大阪障害者センター事務局長)		2,000円
8/11 午後	「特別支援教育の実際と発達支援のあり方」 青木道忠氏 (大阪発達支援センターぼぼろ所長)		2,000円
8/13 全日	「読み書きの苦手を克服する子どもたちの理解と支援」 井川百々代氏 (滋賀大学非常勤講師、特別支援教育士)		4,000円
8/18 全日	「軽度発達障害講座1-発達障害児の聞こえの困難さに対応する支援-」 加藤登美子氏 (言語聴覚士)		4,000円
8/19 全日	「軽度発達障害講座2-発達障害児の視機能の困難さを見つけ、効果的に支援する-」北出勝也氏 (米国オプトメトリスト(検眼士)、視機能トレーニングセンターJolyVision代表)		4,000円
8/20 全日	「手作り教材Ⅱ」エプロンシアター 澤田ひとみ氏 (元大阪市立思斉養護学校教員)		4,000円

会場はすべて大阪発達支援センターぼぼろ隣室ホール (おおさかパルコブ鶴見集会所、住所：大阪市鶴見区今津北1-11-32 問い合わせは ☎06-6964-0703 申込み先 f a x 06-6964-0704) 講座の時間は「全日」が午前10時～午後4時まで。「午前」は午前10～12時まで。「午後」は午後1時～3時まで。受付は開始30分前から。

教員・施設職員のための実践講座 (夏期連続講座) —ただ今、申込み受付中。詳細はホームページを参照下さい—



私は、うわわ研究会のメンバーで「うわわ会員証」を持っています。

さとちゃんのギター演奏とお母さんのお話しを聞き、加藤先生の講演を聞く機会もありましたので、この本が出版される前から他の多数派の人よりも、少しSLについて分かっていくつもりでした。

今回、本が出版されて、さとちゃんが語る自分の世界に触れて、会員として何も知らなかったことに改めて気付きました。

先日、出版の打ち合わせでぼぼろにきてくれた時、帰ろうとしているさとちゃんに「いきなりIIとつぜん」ボラントイアの大学生を紹介してしまいました。さとちゃんは

とても困った顔をしていましたが、「とつぜんうわ」の出現だったのですね。

うわわ会員がこの調子ですから、さとちゃんが困るのも当然です。大きな音が苦手ときいていても、どんな感じになるから困るのか、この本を読んでやっと具体的によく分かりました。「とびとびに聞こえてしまう」こともなるほどそういうことかと納得しました。

「難しいこと」で書いていることはさとちゃんの世界がよく分かって、会員としてとても参考になりました。お母さんのお話を聞いて、なんとなく分かったつもりになっていましたが、こうやってさとちゃんの言葉で語ってくれると困っている姿が浮かんできます。

“体温計がいや”や、“どちらがさきなの”、“もうちよつと”などはわかりにくい”、に現れているさとちゃんの世界は多

**さとちゃんの言葉で語ってくれると困っている姿が浮かんできます  
さとちゃんが過ごしやすいところは、誰にとっても過ごしやすいところ**  
ぼぼろ相談員・うわわ会員 長岡千代子

なればいけないかを示してくれるかと思いきや、何よりも素敵なことは、こうやって「うわわ」の付き合い方を考えて、回りに会員を増やしていこうとしているところですね。さとちゃんが過ごしやすいところは、誰にとっても過ごしやすいところになると思います。

この本には、障害を持つている人たちもそうでない人たちも、自分をわかってもらうためにどうすればいいのかというヒントがいくつかあります。たくさんの人

子どもたち」を応援することになります。さとちゃんが家でやっている、カフエ、クリニックが、ぼぼろにできたらいいなと考えていきます。静かな日のぼぼろに、遊びに来てもらって、(※本の申込みはぼぼろまで)

**教員・福祉職員のための実践講座—発達診断講座—**

趣旨；発達検査は何のためにするのか、それぞれの検査のねらいや特徴は何か、結果をどう見るのか、子ども把握や実践にどう生かすのかについて学びたいという現場のみなさんの要望を受けて企画しました。

講座①「子どもの発達と検査—諸検査のねらい・特徴と子ども把握—(仮題)」

中村隆一氏 (立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

②「新版K式をつかった子どもの把握と支援」

船越文香、馬場喜子 (ぼぼろ相談員)

「K-ABCをつかった子どもの把握と支援」

加藤登美子 (言語聴覚士、ぼぼろ・ことばと発音教室室長)

スーパーバイザー：中村隆一氏

日時；2008年10月5日(日) 午前10時～午後4時

会場；大阪発達支援センターぼぼろ隣室

(おおさかパルコープ鶴見集会室ホール) 予定

受講料；4,000円(定員50名)

### つるみ・ぼぼろ・たんぼぼ 子育て支援教室に40人

6月20日、おおさかパル  
今、子どもが学校でいろいろ  
室をお借りして子育て支  
援教室を開催。「ペアレ  
ントトレーニング（親訓  
練）とは？」と題して、  
えじそんくらぶ奈良「ボッ  
ブコーン」前事務局長の  
西田清さんに話していた  
だきました。今回から地  
域生活支援センターたん  
ぼぼ（旭区）さんも共催  
になりました。参加した  
皆さんに感想を聞きた  
ま。一部ご紹介します。



西田先生のお話熱心に耳を傾ける参加者。（写真上）おおさかパルコープ鶴見店・副店長の野田さんから歓迎のごあいさつをいただきました。（写真右）

## ペアレントトレーニング（親訓練）とは？

「たいへん勉強になりました。子どもが学校でいろいろ困っているの、どうしたらよいかと思いつきながら聞かせてもらいました。先生に教えてもらった方法で少しずつ自分や周りの環境を変えていくことで子どもが良方向に変わってくれたらなあと思えました。本当にわかりやすかったです、どうしたらよ



いかわからなかったの、ひとつの方向が見つけられなかったのか、悩ましいところ（長男）

たです。少しずつ実践して行きます。毎日子どもにおこりっぱなしで、疲れて、夜、アルコー

ルにおおまかせ。うれしくなつて、また、アルコーにつかたりして？。いいお話を聞けてよかったです。反省すべき点ばかりです。（何日つぶるか？）

・親と子どものためのペアレントトレーニングは読みましたが、個人的には実践するのは難しいと感じました。「ほめる」という育て方を十歳になりおだやかにになりましたが、「〇〇先生はほめてくれない。」という不満を口にすすようになりました。「お母さんはちゃんと見てるよ。世の中いろんな人がいるから。でも先生もあなたのことが好きなんやでえ。」とは答えませんが、こういった対応でいいのか、悩ましいところ（長男）

### 子ども（小2）が毎日のように友達にちよっかいを出して、泣かせたりいたづらをしたりして困っています。毎日言い聞かせたり、おこったり、いとところをほめたりいろいろ

・子ども（小2）が毎日のように友達にちよっかいを出して、泣かせたりいたづらをしたりして困っています。毎日言い聞かせたり、おこったり、いとところをほめたりいろいろ

### —今後の教室予定—

（いずれも金曜日10時～12時）

- \* 「親子で遊ぼう！」（おやつ作りなど）  
8月29日、会場；パルコープ鶴見店
- \* 西田清氏を迎えて  
9月19日
- \* 「特別支援教育で何が変わったの？」  
10月17日 卜部 秀二（ぼぼろ）
- \* 西田清氏を迎えて  
11月21日
- \* 「障害のある子の思春期の性」  
12月19日 津川絢子氏（四天王寺国際仏教大非常勤講師）
- \* 「障害児・者、家族をとりまくうごきは？」  
1月16日 播本裕子氏（守る会副会長）

### 夏休みボランティア緊急募集中！

ぼぼろでは火土に学童保育・親子療育教室を日中一時支援事業として本格実施します。現職の教員の方をはじめ、一般の方のボランティアを多数募集しています。ぼぼろまでお問い合わせください。